

「市長と副市長による市内企業訪問」での主な意見等の概要

実施日：平成27年8月7日、8月20日、8月27日

対象企業：市内の企業・工場 7社（主に製造業）

1. 雇用面について

○従業員の採用状況

- 半分が伊賀・名張出身。高卒・大卒が半々で大卒は大阪・名古屋などが多い。20年前まではほとんどが伊賀採用だった。地元高校からの機械・電気系の人材が欲しい。
- 製造業の離職率平均30%の中、当社は6%と低い。（その他、離職率が低いという意見あり）
- 理系女子が欲しいがなかなか来てくれない。将来の大卒リターン者を狙って高校生の頃から企業プロモーションをかけている。

○地域雇用の面での課題

- 大学がないため、大卒者の雇用に向け経営者自らが大学に飛び込んでネットワークを広げている。
- ある程度のポストになった理系女子などが、結婚して辞めて行くことが多い。
- 高専の人材が欲しいが、進学率が上がっており半分は進学してしまい、伊賀に住みたいという意識のある人材しか就職してくれない。（その他、高専卒の人材が欲しいという意見あり）
- 伊賀市出身の研究職がなかなか集まらない。県内各市町から採用することも多い。
- 地元の高校生の思いと企業の側とのマッチングが必要な局面にあると感じる。
- 地元の高校生に地元の会社をもっと知ってもらう機会が必要。
- 障がい者雇用について、受け入れだと施設からの送り迎えがあるが、直接雇用の場合、交通の便が悪く勤務時間を短縮せざるを得なくなっている。交通手段の確保が必要。

2. 従業員の暮らしについて

○住まいの状況

- ほとんどが伊賀名張に住んでいる。
- 独身のときに会社の寮や社宅に住む社員も、結婚後は市内にマイホームを建てている。「若者でもマイホームを建てるライフプランが可能」ということを売りにして求人を行っている。
- 採用後、社員が伊賀市に根付くよう、住宅補助など配慮している。
- 地域の企業内で「婚活」の活動をしている。

○従業員にとって、暮らしの面で伊賀市に足りないものは

- 出会いの機会がない。
- 楽しみがない。ここに行ったら何かある。という拠点がない。バスが少ない。

- 本社からの英会話補助があるが、通う教室が津まで行かないとない。
- 知的好奇心（仕事、趣味含め）を満足させる施設や店舗がない。
- 若い世代が集まる施設や店舗がなく、若い世代が同世代のコミュニティを形成する場がない。
- 夜、独身の若者は遊ぶところがないので、週末、都会へ遊びに出て行く。

3. 企業誘致・地域間連携について

○大学との共同研究の状況

● セミナーなどに行って知り合うところから始め、他県の大学と共同研究をしているが、後に同じ研究を地元大学でもしていたということもあり、身近な大学の研究内容の情報発信も大切。

○本社、研究所移転についての可能性

● 先端のスタイル等の情報収集、モニター調査のための人の確保などでは都市に置かざるを得ない。

4. その他の意見

○若者の定住について

- 転勤で転入はあると思うが、それ以外の新規移住者を増やすことは難しい。
- 伊賀で育った人が戻りたいと思ったときに戻って来られる町にすべき。
- ライフスタイルの多様化により「ふるさと回帰」いう生き方も見直されてきている。
- 条件さえそろえば、人は帰ってくると思う。
- 他市町では、町がIターン者への補助などの支援をしている。
- 観光、Iターン策には絶対に必要。
- 都会へ出て行きたいと思う若者を引き止めるのではなく、戻りたいと思ったときに「いつでも帰っておいで」といえる受け入れ体制が必要。

○まちづくりについて

- 文系出身者の就職先がない。伊賀での働き先はメーカーか、市役所などしかなく、サービス業などの仕事がない。
- 町全体として外国人労働者の受け入れ体制が必要（多文化共生）
- 絶対に伊賀神戸駅を近鉄特急の通過駅にしてはいけない。（交通）
- 伊賀市は総花的にいろんなものがあることがかえって危機感を持ちにくくしている。
- 田舎だから駄目ではなく、田舎だからこそできる、目立つといったプラス思考が必要。
- 町全体のランドデザインが必要。
- 高齢者にやさしいまち、歩いて暮らせるまちにすべき。